



# ニュースレター

2016（平成 28）年 3 月 9 日 グリーフワークかがわ広報部

## ◆グリーフワークかがわ認定 NPO 法人取得記念シンポジウムが開催されました◆

2 月 7 日サポートホール高松において「グリーフワークかがわ認定 NPO 法人取得記念シンポジウム」が開催されました。テーマは「グリーフワーク～地域における協働～」でした。本事業は 2015 年 7 月にグリーフワークかがわが認定 NPO 法人の認定を受けたことを記念し、香川県共同募金会からの助成を受けて行ったものです。香川県、高松市をはじめ関係する 9 団体からの後援があり、参加者は 58 名で県外からの参加もありました。

まず、グリーフワークかがわ理事長杉山洋子より、挨拶と認定 NPO 法人認定までの経過の説明に続き、基調講演は長野県松本市を拠点に活動するケア集団ハートビート代表飯島恵道さんが「悲嘆にあたたかい共感都市づくり～社会の「自制内」に寄り添う」と題して話されました。引き続き青井恵子氏、冨田敏恭氏、西村翼氏の 3 名のシンポジストによる発表がありました。お三方ともにグリーフワークかがわ認定グリーフカウンセラーですが、青井さんは当事者として、冨田さんは葬祭業代表取締役社長として、西邑さんは臨床心理専攻臨床心理コースの大学院生として、それぞれの立場や経験を踏まえて、グリーフワークについての解説や実践報告と問題提起を行い、飯島恵道講師からのコメント、質疑応答に続き参加者との質疑応答を行いました。

参加者からのアンケートでは、「グリーフワーク」ということが自分自身や家族にとって生活の中にあると気づいた、グリーフワークということが明確になってきた、グリーフワークの活動の意義、必要性を強く感じたという声が寄せられました。また、地域の中で会話ができる場が増えることが住みやすい地域づくりにつながるのではないかと、自制内の痛みや苦しみに早く気付いてケアできる地域づくりについて何ができるか考えさせられたという感想もありました。

本シンポジウムでの議論が、グリーフワークへの理解と個人の内面への気づきに留まらず、「共感都市づくり」のためにそれぞれがどういうことから始められそうかという問いかけになり共に考える場になったことは、主催者として今後の活動への励みになることでした。自身の体験を通してグリーフワークについて考える機会であったからこそ、悲嘆にあたたかい地域づくりが必要であると実感できたのではないのでしょうか。

みなさまのご協力ご支援により、本シンポジウムが無事開催できましたことを心から感謝申し上げます。なお、シンポジウムの詳細は終了報告をご覧ください。

（2016 年 2 月 23 日 杉山洋子）

メンタルヘルスの断層～他者理解のための知の怠慢～

花岡正憲

うつ病は世界的規模で増え続けており、女性のうつ病の生涯罹患率は男性のおよそ2倍、PTSD（心的外傷後ストレス障害）は、2から4倍に上るという。また、母親のメンタルヘルスの不調が子育てや家族全体の心身の健康など、社会生活全体に大きな影響を及ぼしていることが様々な研究で指摘されている。

ある調査によると、女性は、男性と比べてメンタルヘルスや家族に関する語彙や情報量が豊かだと言う。女性は、思春期以降、ライフサイクルにおける喪失と再生の過程で、失意や危機の中にあっても、人と真剣につながろうとするからだとも言われる。

子どもの問題が起きたときに、まず心を痛めるのは母親であり、夫婦のあり方を真剣に悩みはじめると大抵は妻の側である。メンタルヘルスの相談の窓口に最初に訪れるのは、女性の方がはるかに多い。ファーストクライアント（最初に訪れるクライアント）は、本来のクライアントのこともあるが、子どもや夫婦や家族の問題を解決するカギを握る人物、いわゆるキーパーソンである場

合が少なくない。

子どもを失い喪失感に打ちひしがれる母親に対して、「若いからまた産めば良い」という言葉が投げかけられたり、夫と死別した妻は、「子どものためにあなたがしっかりしないといけない」などと、弱音を吐くことを許されなかったりする。メンタルヘルスは、人を取り巻く言説環境と深く関わりがあることだ。

「たくさん子どもを産んで国家に貢献して下さい」も、多様な人の生き方に思いを致さない政治家の発言だった。学習や記憶で成り立つ想像力の貧困は、価値観や事情が異なる他者の不在を生み出す。

人が悲しんだり怒ったりする理由が理解できる能力、すなわち人の信条、感情、願望などを感じとれる力を身につけるには、それを意図した日常的な努力が欠かせない。弱者や逆境にある人にとって生き辛い空気感をつくり出しているのは、他者理解のための知の怠慢に他ならない。

（グリーフカウンセラー 精神科医）

2016・3・3

◆GWK 実務者研修報告◆

2月6日（土）18:00～19:30に、サンポートホール高松67会議室において、グリーフワークかがわ会員を対象とする研修を行った。テーマは「地域でグリーフワークを」とし、講師はケア集団ハートビート代表飯島恵道さんをお招きした。参加は8名の認定カウンセラーであった。

まず、ケア集団ハートビートの最近の活動について紹介があった。当事者が集い、喪失体験について語り合う場の運営を継続的に行っているが、グループダイナミズムへの対応について、ファシリテーターの力量が問われることからファシリテーター育成、会の運営について、検討を重ねておられることが紹介さ

れた。

質疑のなかで、まず、デスクカフェ、ワールドカフェ方式での悲嘆を語る場を作ることなどについて、会員が実際に体験したときの情報提供、感想などが話し合われた。またケア集団ハートビートとグリーンワークかがわも共通する課題として「分かち合い」を目的とする当事者のグループミーティングの意義や方法、ファシリテーターの役割についての議論とともに、本来あるべき姿として、ピアサポートとしての効果をもっと引き出していくためにどうすればいいかについても話し合われた。また、「グリーンワークは、本来はメンタルヘルスケアのなかで支援されていくものであり、学校教育、医学教育の中で喪失と悲嘆に向き合う教育が行われていくべきだろうがまだ浸透してないとの意見が出された。最後に「自制内」の意味について質疑があり、翌日のシンポジウムの議論に繋がる内容となった。

## ◆報告◆ ◆2016年2月14日 第91回 理事会開催◆

### 《審議事項》

#### 第1号議案 活動規程に関する事項

第90回理事会での修正案について承認された。

#### 第2号議案 香川県新交付金2015年度実績見込み額に関する事項

香川県障害福祉課からの照会事項「平成27年度自殺対策事業の実施見込額調査」について、1月25日提出回答を報告し、2月15日と2月末に提出する見込み額について、提出予定の事業報告総括表を基に、増減のある項目についての詳細、また、全体としては減額となることの説明があり、実績額550,000円で報告することが承認された。

#### 第3号議案 認定カウンセラー拡大会議に関する事項

年度内に、新認定者を含む認定カウンセラーを対象とする拡大会議を開催することで了承された。

#### 第4号議案 2016年度事業計画に関する事項

第3号議案に関する緊急動議として審議され、2016年度事業は活動拠点としている高松市男女共同参画センターが10月で閉館・移転となるため、会場の変更と、場合によっては開催月日（曜日）の変更の可能性も踏まえ、相談事業をはじめ全体の事業を、まず上半期の予定と担当者を決めることで了承された。またこのことについて、認定カウンセラー会議で説明をし、協力を呼びかけることで了承された。

#### 第5号議案 自殺予防に向けたメンタルヘルス向上に関する研究プロジェクト「交流集会」に関する事項

笈田副理事長が出席することで了承された。

#### 第6号議案 精神保健福祉ネットワーク会議（高松市自殺未遂者支援関連機関との連携）に関する事項

事務局（楠本）が出席することで了承された。

#### 第7号議案 普及啓発事業に関する事項

プロシユール印刷発注の確認を行い、送付先はシンポジウムのチラシ発送先と同様とし、発送準備に関してAIYAシステムに依頼することで了承された。

#### 第8号議案 ホームページ見直しに関する事項

トップページの構成見直し、ブログ設置等についてAIYAシステムに見積り依頼をすることで了承された。

#### 第9号議案 技術援助に関する事項

高松市民病院塩江分院職員からの提案について、詳細を確認することと、塩江分院からのリンク先として当法人のHPにリンクするよう交渉することで了承された。

## 第10号議案 2016年度理事体制に関する事項

理事2名より退任の意思表示がなされており、理事体制について審議された。定款で規定されている人数は確保できるが、定款にある任期等について、法務局またはNPOの所管課に確認をする必要があり次回理事会で再検討をすることで了承された。

## ◆2016年2月20日 第41回 認定カウンセラー会議◆

### 【報告事項】

1月の定例事業報告が行われ、今月は特に課題は報告されなかった。先日行われた認定NPO法人取得記念シンポジウムアンケート結果から、「グリーンワーク」について身近なことだと認識したという意見、自分と家族におけるグリーンワークを振り返る意見、悲嘆に気づき対話できる地域づくりについての意見があったことから、シンポジウムをおこなったことの一定の効果があつたと考えられる。また、2月6日に講師として飯島恵道さんをお招きし行われた実務者研修についてケア集団ハートビートさんの行っている活動内容の紹介から質疑応答、ディスカッションなどハートビートさんの行っている地域に話し合いの場を作る活動について話し合った。

### 【審議事項】

○2015年度認定カウンセラー拡大会議開催について

今年度新規に認定され登録したグリーンカウンセラーにも案内し、現任のカウンセラーと合同のカウンセラー会議を開催することが決まった。

○2016年度事業計画について

- ・前回のこの会議で、主担当から下半期は柔軟に対応するという考えが示されたが、まずは上半期の担当者募集に留め、上半期は人材確保や人材育成を進めながら下半期の計画を立てるほうが適切ではないか。
- ・2月6日の実務者研修でもあつたように、グループダイナミズムについての研修も必要である。個別の事例検討では限界である。過去には学習会で集団精神療法をテーマに輪読会をしたこともある。

### 【勉強会】

クライシス・カウンセリングハンドブック 第3章 社会不安 担当者：花岡正憲

○日本は、地域社会で起きた問題を解消するための伝統的（古典的）手法が機能しなくなっている。一方、それに代わる地域力をいまだ持たず、地域が痛んでいる。わが国は、移民、難民の受け入れの敷居がいぜん高い。異質なものを受け入れることに寛容になれないのは、地域社会で起きる複雑な人間関係や緊張関係を仲裁（調停）できる潜在力が乏しいからであろう。